

花田 信弘 (はなだ のぶひろ)

略歴

- 1981年 九州歯科大学歯学部 卒業
- 1985年 九州歯科大学大学院 修了
- 1987年 米国ノースウェスタン大学 博士研究員
- 1990年 岩手医科大学歯学部 助教授
- 1993年 国立感染症研究所 部長
- 2002年 国立保健医療科学院 部長
- 2008年 鶴見大学歯学部探索歯学講座 教授
- 2021年 鶴見大学 名誉教授
- 2021年 上海理工大学 特任教授 (公衆衛生部門)



全身からみた口腔検査

鶴見大学名誉教授、上海理工大学特任教授 花田信弘

これまでの口腔検査は口腔疾患の発症に関する検査であった。ところが、近年は口腔外の疾患に関連する細菌が口腔に定着していることが判明した。特に炎症性腸疾患 (IBD) や大腸がん (CRC) との関連が指摘されている口腔細菌は齲蝕や歯周病との関連性が低く、いわば歯科医師がノーマークだった菌種が含まれる。これからの口腔検査は、口腔外の疾患に関連する検査を視野に入れる必要がある。

大腸内視鏡検査を受けた 616 人のコホート研究により、*Atopobium parvulum*, *Fusobacterium nucleatum*, *Actinomyces odontolyticus*, *Solobacterium moorei*, and *Parvimonas micra*, *Peptostreptococcus stomatis*, and *Bilophila wadsworthia* の 7 菌種が大腸がんの発症と進行に関わっていることが指摘されている (Yachida et al. Nat Med. 2019)。*Bilophila wadsworthia* を除く 6 菌種は口腔の常在菌である。この中で、*A. parvulum*、*F. nucleatum*、*S. moorei* は硫化水素 (H_2S) を産生する。 H_2S は有毒ガスであり、口臭、IBD、CRC に関連している。そこで H_2S 産生菌の数を制限することは、CRC の予防と治療に対する有望なアプローチとなりうる (Lin et al. Redox Biol. 2023)。

武内博朗先生をはじめとする我々のグループでは、カスタムトレーと殺菌消毒薬を用いる口腔細菌置換療法で H_2S の産生を抑制することを提案している。ここではその症例を紹介する。